

令和4年度「児童生徒自身によるネット利用 ルールづくり活動」事例紹介校実践報告書

1 学校の概要

- (1) 学校名 所沢市立東中学校
- (1) 学級数 16学級
- (2) 児童生徒数 500人
- (3) 教職員数 30人

2 「児童生徒自身によるネット利用ルールづくり活動」に関する取組について

(1) 取組内容

- ・端末使用上のルール（東中タブレット宣言）の全校周知
- ・学級討議、生徒総会でのルールの見直し・検討
- ・「SNS・タブレットの取り扱いについて」（授業）
- ・全校に設置された投書箱での意見の募集、それに基づいたルールの見直し・検討
- ・端末使用上のルールの達成度調査
- ・学級会におけるルールの見直し・検討及びマイネットルール作成

(2) 全校への周知の方法

- ・新入生歓迎会や生徒総会などで生徒会本部から全校生徒へ周知
- ・各教室に「東中タブレット宣言」を掲示



3 広報活動について

○活動内容及び実施期間

8月 5日 市内生徒会交流において本校における取組実践やルールの発表



- 1 2月13日 安全安心な学校と地域づくり推進支部会議にて事例報告
- 2月 7日 生徒自身によるネット利用ルール作りについての授業公開 ※1
- 2月16日 生徒指導主任研修会にて事例報告 ※2

4 活動の成果と課題

(1) 成果

本年度は、昨年度作られた「東中タブレット宣言」をさらに全校生徒に周知し、より生徒自身が自分たちのための利用ルールとして実感できるよう、生徒会本部からの呼びかけや学級会の場を設けるなど様々な働きかけをしてきた。学校生活の中で「東中タブレット宣言」をどのくらい守れているか、意識できているかについて3学年を対象にアンケート調査実施したところ、9割以上の生徒が「守れている」、「ほぼ守れている」と回答した。このアンケート結果をもとにして、よりよいネット利用のためのマイルールづくりに関する学級会を開き、これからの超情報社会においてどのようにネットやタブレット端末等の利用と向き合えばよいか、どの生徒も真剣にルールの見直しを行った。本年度の取組を通して、少しずつではあるがタブレットの利用目的を多くの生徒が正しく理解し、ルールを守って安全に正しく使用している実践的態度の育成ができていたことを実感することができた。

(2) 課題

今回の取組を受け、新たな時代を担う人材として将来活躍する生徒が、これからのネット利用と望ましい生活のため自らルール制定に関わることで、自律する力や自分で正しい情報を選び取る力を身に付けるきっかけにつながった。しかし、アンケート調査において「ネットのゲームでつながった人がある」や「ネットの情報をうのみにしてしまうことがある」、「パスワードを友達に知られてしまうことがあった」、「学習に関係ないサイトに接続してしまった」などと回答している生徒もおり、今後ネット利用のルールを守る意識をさらに高め、それらを踏まえて「東中タブレット宣言」の積極的な見直し・検討を生徒に促していくことが次年度以降の課題である。

また、利用目的や情報モラル等を正しく学んで理解し効果的な活用ができるような実践的態度を養うため、今後も引き続き教師、生徒ともに幅広い知識を増やしていくことが必要不可欠である。社会情勢などに応じて適切な利用方法にも変化がみられることも予想されるので、柔軟にルールの見直しなどの対応ができるよう努力していくことも今後の課題とする。

※1

第3学年 学級活動指導案

令和5年2月7日(火) 第5校時
活動指導案 3学年 各教員
生徒数(3学年全体) 男子 266名 女子 72名 計 338名
指導者 3学年 職員

- 題材「マイ・ネットルール」
- 題材について
 - 生徒の姿

3学年の生徒は、優しく、友達思いの生徒が多い。その反面、自分の思いを伝えることが苦手な生徒も少人数いる。また、学習においては、意図的に取り組み、相談などでは意見交換が多く見られる。

しかし、この3年間で数多くのネットトラブルが生徒間であった。そのため、この3学年では、ネットに対する規範意識を高めるための努力を重ねてきた。
 - 題材設定の理由

近年、パソコン等の情報機器の普及が進み、私たちの生活の必需品となっている。携帯電話も、スマートフォンへの移行が進み、生徒たちの生活にも広く浸透してきている。また、通信やメール、ゲームアプリの利用や動画・音楽の視聴もでき、さらには、LINE等のSNSでグループを作って友人同士で会話を楽しんだり、顔の見えない相手と接したりする機会も増え、トラブルに巻き込まれる事案も少なくない。

3月に中学校を卒業して義務教育が終わり高校に進学する生徒たちは、これから社会に出て交友関係や行動範囲が広がるが、自己責任でネット利用をする場面が増える。次のステップに進む生徒たちがこれからのネット利用と望ましい生活を送るために、ネットルールを自分で作成し、自律する力を身に付けさせて卒業させたい。児童等に巻き込まれないよう自分で正しい情報を選び取る力を身に付けさせたいと思い、本題材を設定した。
- 指導のねらい
 - ネットトラブルへの規範意識を高めるための自己意識の向上
 - 自分に必要なルールの取捨選択の能力の育成
- 評価の観点と本実践における評価標準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
有害なネット社会における課題と現在の学習とのつながりを理解し、自己の生活をよりよくするために正しいネットの使い方を身に付けている。	集団の中で、個人が共通して直面する現象および事案にかかわる課題を見出すときに、必要な情報を収集・整理して考察し、解決に向けて意思決定している。	自己の生活をよりよくするために、自己のあり方を自主的に改善するとともに、料金を思い遣り、自分らしい生き方を主体的に選択している。

5 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
1月31日(火)	6校時	・アンケート調査を実施する。	・これまでの生活を振り返り、生徒一人ひとりがネット利用に対する課題意識を持つようとする。	【態度】 ・話し合い活動が深まるよう自主的、自律的に準備を進めようとしている。 【観察】 【Google フォーム】

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア. 議題「マイ・ネットルール」

イ. 本時のねらい

- 集団の向上を目指し、なかま協力して取り組む意識を育てる。
- みんなで決めたルールを守り、よりよい集団づくりに努める態度を育てる。

ウ. 展開

活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
1 開会の言葉	・観衆を学級全体に説明する。	◎目指す生徒の姿と評価方法
2 討議委員のあいさつ		
3 議題の発表・承認		
4 観衆理由の説明		
【観衆理由】 私たちは3月に中学校を卒業して、高校に進学します。義務教育が終わり、これから社会に出て交友関係や行動範囲が広がるなど、自己責任でネットの利用をする場面も増えます。次のステップに進む私たちがこれからのネット利用と望ましい生活を送るために、ネットルールを自分で作成し、自分をコントロールする力を身に付けて卒業したいと考え、観衆しました。		
5 教師の話	・観衆理由を補足しながら、自己の生活をよりよくするために正しいネットの使い方を深められるような話し合いになるように助言する。	



※2

2020年 SNS関連犯罪の被害者(18歳未満) →1819人

その中でTwitterが関わっているもの →35.3%

便利な反面、多くの危険が潜んでいる!

私達ができること

児童生徒の情報モラル向上!

事例紹介①「タブレット宣言」の作成

作成するにあたって大切にしたこと

生徒の合意形成

作成するまでのプロセス(昨年度)

- ①全校生徒にタブレットの使用についてのアンケートを実施
- ②各クラスでタブレットについての話し合い(ルール)を学級討議
- ③学級討議の結果を生徒会本部役員が確認し、それをもとに東中タブレット宣言案を作成
- ④東中タブレット宣言を各教員に掲載
- ⑤定期的にタブレットの使用状況についてのアンケートを実施

今年度の活動

【手順】
・観衆使用上のルールの全校周知
・学級討議、生徒会でのルールの見直し・検討
・SNS・タブレットの取り扱いについて【授業】
・全校に伝達された授業での意見の発表、それに基づいたルールの見直し・検討
・端末使用上のルールの確認度調査

(夏季休業日) 市内生徒会交流において、実践発表

今年度の主な活動

(2・3学年)
・「正しいタブレットの取り扱いかた」【授業】
・全校に伝達された授業での意見の発表、それに基づいたルールの見直し・検討
・端末使用上のルールの確認度調査

●安全安心な学校と地域づくり推進支那協議に提案
【小中連携と地域連携】